

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190100762		
法人名	株式会社 わかば		
事業所名	グループホームわかばの家勝谷		
所在地	鳥取市鹿野町寺内137番地2		
自己評価作成日	令和4年 1月10 日	評価結果市町村受理日	令和

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あいおらいと		
所在地	鳥取県鳥取市気高町浜村342番地		
訪問調査日	令和4年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイルームの広さを生かし、リハビリ体操、歩行訓練をし日課としている。また午前午後には充実したレクリエーションに取り組んでいる。コロナ禍の為地域との交流はなかなか参加できなかったが、施設周りの散歩やドライブ(花見や自宅近くへ行く)などを行った(2021年度はコロナ禍で会社との協議により外部を招いての行事は見合わせた)。清潔保持として週3回入浴をしている。(週2回の方が何名かおられる)。認知症予防として、出来る事を一緒にしてもらう(洗濯干し、洗濯畳、掃除、調理など)。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は昨年度開所し、2年目となります。コロナ禍ではありますが、感染防止に気をつけながら、地域の行事に参加しています。また福祉施設のイベントや避難訓練を協働で実施することで、徐々に近隣とのつながりが持てるようになってきています。また、今年度から新たな施設長を迎え、事業所の理念に沿って利用者一人ひとりの意向を尊重しながら、サービスの向上にチームで取り組んでいます。今後も利用者の方の安心安全を目指した事業所運営と家族の思いに添った支援の継続を期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し情報を共有し、お一人お一人に寄添うよう努めた。	法人の理念は掲示されていますが、事業所の理念は掲示されていません。また、職員の理解も十分ではありません。	今後、理念の位置づけや地域密着型サービスの意義などを職員が理解することに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員の公民館長様を通して、地域のイベントへの参加や近隣施設が開催する避難訓練参加の声掛けをして頂き、出来る限り参加させて頂けるように取り組んでいる。	地域の公民館長や民生委員の方から行事やイベントへの声かけがあります。また、地元の方から野菜の差し入れをいただくなど、地域との付き合いが見られるようになってきました。近隣の福祉施設との火災訓練の実施や他の高齢者施設との交流もできてきています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、事業所の利用者参加のもと現在の状況を報告し、サービス向上のために質疑応答で説明し、意見を頂き意見等は改善無に向けて努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、事業所の利用者参加のもと現在の状況を報告し、サービス向上のために質疑応答で説明し、意見を頂き意見等は改善無に向けて努力している。	運営推進会議を定期的開催しています。現在、コロナ禍のため書面での開催となっています。会議からの意見や助言をいただきサービス向上につなげるよう取り組んでいます。また、今年度から運営推進会議に職員も交代で入ることにより、全体に会議の内容の周知がすすんでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	鹿野町総合福祉センター、鳥取市鹿野町総合支所市民福祉課、鳥取西部地域包括支援センターなどの担当者に運営推進会議へ参加して頂き、情報の提供や意見交換を行って協力を得ている。また頂いた意見に対し改善に努力しその結果を伝えるようにしている。	運営推進会議での情報提供などから助言を受けるほか、必要に応じて連携が行われます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体研修や施設内研修で定期的に研修を行っている。また日々のケアの中で常に職員間で話し合いをし利用者の思いを受けとめる努力をしている。	施設長が身体拘束廃止委員となっており、法人で年1回、事業所で3ヶ月に1回、身体拘束に関する研修などを行い、身体拘束の弊害を理解しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体研修や事業所内研修で虐待について勉強している。日々のケアの中で研修を振り返り虐待のないケアを行えるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加している。現在、権利擁護に該当する利用者はおられないが、事業所内研修等で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項等説明して、質問があれば理解して頂けるように説明している。説明時こちらから疑問点を聞くこともしている。また、契約後でも質問があれば問い合わせして頂けるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時の重要事項説明の時に、法人内や事業所への苦情窓口を記載している事、を説明している。利用者、家族の要望は職員で共有し運営し反映させている。	利用者の方の意見を日々聞くように努めています。意見の少ない方は、職員で話し合いその意向を推察しています。また、「おたより」を2ヶ月に1回出すことにより、家族からの意見も集まりやすくなっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で気づいた意見、要望は聞いている。スタッフ会議でも話し合いケアを振り返りしている。	スタッフ会議を毎月開催し、業務に関する意見を取り入れて業務改善へとつながるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者として労働時間や勤務形態での意見や要望等を代表者へ伝えるように努めている。今後は年1回～2回個人面談を行い、意見をくみ取る努力をしていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修を月毎に担当を決め、職員一人ひとりが研修テーマを考えて施設職員に研修を行えるよう、勉強を兼ねて実施している。研修が活かされているのか今後は振り返りをしていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	順番に全体研修への参加はしている。コロナ禍ではあったが、隣接している小規模多機能事業所と合同避難訓練をすることが出来た。今後はグループホーム管内で勉強会など進めていきたい。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族の情報を元に本人に話を聞くようにしている。言動や動きでも要望が理解できるよう些細な事でも気づけるようにし、信頼関係が気づけるよう努めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談にて、家族が困っていた事、要望などを聞き話し合いを行っている。入所後も面会時や気づいたことなどをこまめに報告し話し合い日々のサービスに活かせるように努め信頼関係を築ける努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族と話し合い、思いや要望を聞きケアプランに反映しサービスを提供できるよう努めた。日々観察しモニタリングをしプラン変更等にも努めた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活での聞き取りをもとに、本人の残存機能を生かし出来る事は一緒にできるように支援するよう努めた。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向をくみ取り、家族に出来る事(受診、衣替え等)はしてもらい、事業所とともに支援している。利用者と家族が関わりを持って頂ける時間を作る努力をしている。(面会等)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中でなかなか馴染みの人の交流は難しかったが、本人自宅近くへのドライブ等は行うことが出来た。	家族から生活歴等を聞くことなどにより、馴染みの関係が継続できるように支援しています。また、これまで利用していた美容室等へは家族の方の介助で出かけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を見極めテーブル席を考え、配慮することで関わりが持てるよう努めた。午前、午後のレク等で交流を深めた。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の時に、契約が終了して退所になってもいつでも気軽に相談をして頂けるように説明している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集をしたり、利用者、家族と話す機会を作り、本人の思いをくみ取り、本人の意向に添うよう努めている。	入居時のアセスメント、家族との話や日々のケアの中で思いを聞いています。また、手芸やドライブなどの要望なども聞くように努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前のアセスメントによる生活歴の把握に努めている。入所後は、日々の会話から情報を得ている。、困難な方は家族の面会時の会話より生活歴を把握出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活状況を生活記録に残し、状況が把握出来るように変わった事を記録や連絡ノートで状況を共有出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在の生活の中で利用者が暮らしやすいように主治医や家族の意見や、日々の変化に気づきモニタリングの見直しをし介護計画に反映している。	介護計画は利用者の現状に沿ったプランで作成されており、サービス担当者会議を開催され、モニタリングも毎月行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアを記録に残し、申し送り等で職員間での情報共有を行えるようにしている。スタッフ会議で話し合いモニタリングの振り返りをし介護計画に活かし実践できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に柔軟に支援出来るように、その時々状況に必要に応じて対応方法を共有できるように情報共有を行っている。家族、本人の気持ちを理解し対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域の行事に参加することはできなかったが、ドライブで花見や足湯に出かけることはできた。天気の良い日は散歩に出かける。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続しているが、希望により訪問診療に切り替えて定期的な医療を受けられるように支援している。受診前には家族に状況報告や相談をし、医師にも利用者の情報や困っていることを報告している。かかりつけ医との関係も大切にしている。	これまでの医療機関の受診は家族の協力により行っています。また、近隣の病院からの往診もあります。状態変化や結果については、その都度家族へ連絡し情報提供を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師は配置されていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関へ利用者の状態の把握が出来るように情報を提供している。入院時はこまめに病院、家族等に連絡し状況確認をしている。退院時にはその時の状態を医療機関から情報提供して頂き、施設職員へ情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に重度化した時、相談させて頂くことを説明している。現在は重度化した事例は、当事業所においてなし。今後の事もふまえて、重度化した時の対応も出来るように施設内でも検討が必要。また、医療機関とも連携が取れるようにしていく必要がある。	入居前に重度化については、重要事項説明等で説明しています。しかし、これまで重度化した事例はありません。今後が、重度化した場合の対応について職員と話し合いの機会を持つことに期待します。	重症化した際の対応方法等について、法人及び事業所での検討に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療連携を施設開設時に締結しており、緊急時には24時間サポートして頂けるようにしている。 外部研修への参加は出来ていないが、スタッフ会議等で話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署立ち合い1回、地域と合同避難訓練を1回実施した。、災害時に備えている。防災委員会も、2ヶ月に1回は行っている。食料や飲料水等の備蓄も備わっている。本年度大雨時、速やかに避難できるよう準備することが出来た。	定期的に避難訓練を実施しています。しかし、風水害に関する訓練は行われていません。今後、各災害と夜間を想定した避難訓練の実施が必要です。	今後、各災害と夜間を想定した避難訓練の実施が必要です。
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない声掛けに努めている。しかし、時折馴れ馴れしい声掛けになっている事もみられる。接遇研修を行い言葉遣い等は学んでいるが、業務中の意識が十分とは言えない場面がみられる。帰宅願望が強い時にスピーチロックが見られることがある。	日々のケアにおいて、職員は利用者の方の尊重やプライバシー保護に努めています。なかでも特に声かけなどに気を付けています。また、研修に参加し人権尊重など直接対人業務における留意点を確認するなどの取り組みが行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で利用者の思いを聞き取り支援に繋げるよう努めている。また自己決定ができるような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れ的なものは職員が決めていることもあるが、利用者の要望を聞いて過ごすようにしている。一人一人のペースに合わせた支援が出来るように出来る限り努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時衣類を選んでもらったり、ボタンとかできることはしてもらっている。汚れ等に気づいた時には声掛けし更衣を行っている。朝の整容は自分でしてもらおう声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	思い出の食べ物や新しい食べ物を美味しくいただくことが出来ている。その中で、野菜の皮むきや、味噌汁の材料切りをしてもらったりした。また副菜の盛り付けや片付けを順番にしてもらうことが出来た。	利用者の方と共に食事の準備や調理が行われています。また、一人ひとりの能力を発揮できるように配慮し、食事を楽しんだり、食への関心を持ってもらえるような工夫に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量を記入し、一日の水分量と食事量が把握出来るようにしている。水分摂取のためお茶ゼリーを提供している。 状態に合わせて、食事形態もキザミ等で対応している。個々にあった量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしていただいている。自分で出来ない方は職員が介助し口腔内の確認をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力でトイレに行く利用者にも声掛けし、リハビリパンツやパッドの汚染の確認をし清潔保持に努めた。介助が必要な利用者には、定期的な声掛けをトイレ誘導していった。夜間帯のパッドの見直しをすることが出来た。	排泄記録により、利用者の方の排泄リズムを確認しながら、できるだけ自立的にトレイで排泄が行なえるよう、タイミングを見て声をかけながら支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にヨーグルトを提供したり、水分を取っていただくよう声掛けをしている。毎日のリハビリ体操や歩行練習等を習慣付けている。それでも排便が困難な方は、下剤で対応している。また便の形態、量も記録に残している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴が行えるようにしている。拒否がある場合は時間を変えたり、曜日を変えたりしている。血圧が高い時はシャワー浴や清拭で対応している。希望日に入れることはできないが、入浴後は気持ちよかったと言って満足されている。	入浴は、利用者の希望に沿って週2～3回行われています。日々の健康状態や体調に合わせて時間帯や入浴日を調整し、柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のタイミングで居室に入って休まれている。清潔な寝具で睡眠出来るように、各週ごとに順番にリネン交換を行っている。季節ごとに居室の温度管理をした。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、薬剤師が持ってくる処方箋を確認している。服薬の変更があれば、その都度医務記録に記載し情報共有している。わからないことがあるときは薬剤師に尋ねるようにしている。誤薬がないように二人でチェックをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室、廊下の掃除機かけ、洗濯干し、洗濯物たたみ、お盆拭き、盛り付けなど、利用者様に役割を持って頂けるように支援している。手づくりおやつを一緒に作ったりした。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は、施設近くを散歩したり、玄関先で日光浴をした。コロナ禍であったが、近場の花見や足湯にドライブに出かけることが出来た。また利用者様の自宅近くまでドライブも行くことが出来た。コロナが少し落ち着いた時に、外食レクで、出かけることが出来た。	現在、コロナ禍により頻回には外出が行われていませんが、感染防止に気をつけながらドライブなど外出の機会がもてるようにしています。今後、感染の推移を確認しながら、外出活動が行なえるように意識をしています。	
50		○お金の所持や使うこととの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者、家族の意向があり財布を持っている方がいる。買い物時ほしいものを自身の財布で支払っている。残金少なくなると家族が補充している。そのほかの方は必要時に事業所の立替にて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話で会話をされることがあった。要望があれば職員が家族へ電話をかけて本人と話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れて季節に合った壁画を職員が作成し飾っている。温度計、湿度計で適温を保てるよう換気等にも努めている。 施設内は清潔を心がけて、毎日掃除を行っている。	共有空間に利用者の作品や装飾があり、落ち着ける空間となるよう配慮しています。しかし、トイレの空調が無く事業所内での温度差が生じている場所もあります。	事業所全体で温度差などが生じないよう、適切な整備や管理を今後に期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なるべく気の合う利用者様同士が過ごせるよう席を工夫した。またゆったりと過ごせるようにソファコーナーも設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族と相談させて頂き、使い慣れた物、写真などを飾ったりしているが、利用者の状態に合わせた環境づくりを行い、危険がないように工夫している。	居室は整理され、居心地の良い場所となるよう配慮しています。また、持ち込む品は特に制限はなく、馴染みの物を飾ることで落ち着ける空間となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の目線に合わせてトイレの名前表示をして場所を分かりやすくする等の工夫をしている。危険物や障害物を置かないように、安全な環境づくりを心がけている。		